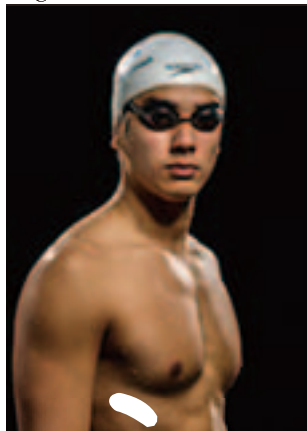




麻布ひと

未来へ残したい麻布の声



リオオリンピック
おぜき
尾関ミゲル源さん
けん
(26歳)
元スペイン代表
水泳選手



リオオリンピックで着用したユニフォームと高速水着。

水泳で学んだこと、オリンピックの経験は宝物

「オリンピックは勝つことではなく、参加することに意義がある」。かのクーベルタンの名言だ。とはいえ、国を代表する選手に選出されること自体、想像を絶する世界だ。1991年生まれ、26歳の尾関ミゲル源さん(以下源さんと表記)は、2016年のリオデジャネイロ(以下リオと表記)オリンピックのスペイン代表、水泳選手として、参加した。さらに驚くのは、弟のブルーノ君と兄弟で、代表に選出されたのだ。

区立本村保育園、本村小学校出身です

2016年8月8日、源さんは、リオのオリンピックプールで、男子4×100m自由形リレーに臨んでいた。第二泳者として奮闘し、アンカーは弟のブルーノ君。4年に一度のオリンピックの大舞台で、彼等は何と！スペイン新記録を樹立。本番で記録を更新し、スペインで最も速いスイマーの4人の中に兄弟がいる、という快挙は恐るべし！以外何ものでもない。「予選は14位で決勝には進めませんでした、達成感はありません。」

源さんの父はスペイン人、母は日系ブラジル人。両親の仕事の都合で、高校まで港区で育つ。区立本村保育園時代より、スイミングスクールに通い始めた。本村小2年の時、コーチの勧めで本格的に泳ぎ出す。港区小学生の水泳大会でも、新記録であっさりと優勝。

中・高は都内のインターナショナルスクールに進学、クラブチームの一員として活躍を続ける。夏休み、父の母国スペインで過ごす間も、現地のクラブチームに通い、練習は欠かさなかった。

ミシガン大学で鍛えられた4年間

大学は、あのマイケル・フェルプス(オリンピック金メダルの通算獲得数23個は、現在も史上1位)を輩出した名門ミシガン大学へ。入部した水泳部では、1年生は強制的に寮生活。水泳はもちろん、学業にも全力投球、が名門たる所以。毎週、学業の個人指導のプログラム受講が義務づけられる。日曜の休日以外は、水泳漬け。6時半からの朝練、授業を終えて、15時半から3時間。平均8000m泳ぐという。寮では栄養士指導の元、「1日約9000キロカロリーの食事をしていました。」

「高校までは、自分だけの勝ちにこだわる感がありましたが、ミシガン大に入ってから、水泳を通じて考え方が大きく変わりました。」と、源さんは振り返る。チームワークの大切さ、連帯責任、タイムマネジメント(効率良い時間の使い方)など、大学生活と水泳から学んだことは多かった。大学3年時、弟のブルーノ君も入学。2人で支え合いながら、さらに鍛え上げていく。

全米NCAA Championship(全大学の招待選手のみで大学チームで競い合う大会)では、ミシガン大学選抜メンバーとして、ブルーノ君と共に4×50mメドレーリレーに出場、全米新記録を樹立して、堂々優勝！チーム総合でもミシガン大学を優勝に導いた。

19人の同期の仲間は、卒業時6名になっていた。記録が伸びない、学業成績が芳しくなければ、クラブでの残留は認められない。自ら限界を感じて退部する者もいる。ただ、一緒に生活を共にした友として、付き合いは続いている。



ミシガン大学時代の2013年、ブルーノ君も参戦したメドレーリレーで優勝を飾った。

プロのスイマーとして、スペイン代表入りを目指す

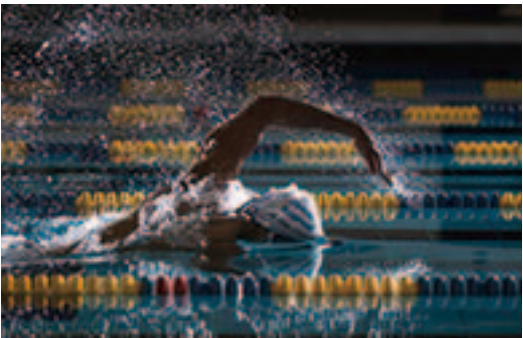
ミシガン大学では経済学を専攻、卒業後、源さんはプロのスイマーとして始動。かたわら、ミシガン・イースタン大学院に進学、ホテル&レストランのホスピタリティを学びながら、スペインでの大会にも積極的に参戦した。絶対オリンピックを目指そうと決心したの

は、2012年ロンドンオリンピック選考会の時。「努力を続ければ、選ばれるチャンスがありそう」と、ブルーノ君と二人三脚で練習に励んだ。

念願かない、兄弟揃っての快挙！スペイン代表に選出され、晴れてリオへ。水泳王国のアメリカや日本とは違う、と源さんは謙遜する。とはいえ、厳しいレースを勝ち抜き、兄弟揃って、大げさに言えば4600万人余のスペインの頂点に立ち、国を背負ってオリンピックに臨むのだから、「凄い！」としか言いようがない。

リオに乗り込み、さぞや緊張したと思うが

泳ぐ時のキックに惚れ込んだコーチから声をかけられ、小2から本格的に水泳を始める。



「泳ぐ時、何を考えているの？」と質問したら、「練習時はストロークや息継ぎなどをカウントしますが、レースでは何も考えないようにしています。」と、源さん。



源さんのマルチな才能、それは4ヶ国語を自由に操ることだ。日本語、英語はもちろん、父と話す時、オリンピックのチームメートとはスペイン語。母、祖母とはポルトガル語、時々英語と日本語。祖母のけい子さんが「小さい時の寝言は、源もブルーノも日本語でした」と笑う。アメリカ、スペインで、ブルーノ君と秘密の話は日本語でしていたという。

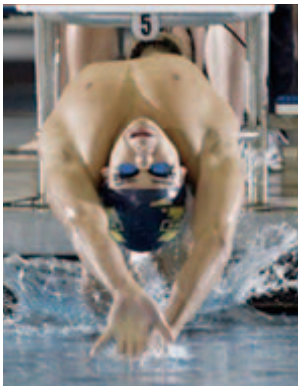
「先輩、後輩がアメリカ代表で参加していましたし、各国の水泳チームはミシガンの関係者が30人近く来ていたので、久しぶり〜という感じ。懐かしく、楽しかったですよ。」水泳王国アメリカのトップクラスに在籍すれば、そういうことなのか、とびっくり。

一オリンピックから、今後はビジネスマンとして歩む決意

2016年12月、区切りをつけた源さんは引退を表明。社会人として、東京をベースに一人暮らしで、新しいビジネスマン生活を始めている。ただ水泳指導のオファーが多く、休日は、不定期で麻布台の東京アメリカンクラブなどでクリニック(教室)を開催している。

毎日泳ぐ生活から、働く生活へとリセットしているが、毎朝ジムで汗を流し、身体を動かすのは欠かさない。「一オリンピックとしての経験は貴重ですが、これからは一ビジネスマンとして歩みたい。」と、決意を語ってくれた源さんだった。

プロのスイマーからビジネスマンへ。その切り替えの潔さ、クールな判断力も、ミシガンでの生活から学んだに違いない。アップレ！源さん！そしてマドリッドに移り、生物学を研究しながら、2020年東京オリンピックを目指すブルーノ君、頑張れ！頑張れ！



オールマイティの源さんだが、背泳ぎとクロールが得意だ。



撮影の本村小では「懐かしいです。変わってない」と言いながら、プールに飛び込んだ。子ども達からオリンピック選手になる方法を尋ねられることが多いが、「泳ぐことを楽しんで？」と聞き返す。これが原点、とスバリ。



兄弟揃ってのオリンピック出場！兄は188cm、弟は194cm。恵まれた身体は鍛え抜かれている。



リオオリンピックで4×100mのリレーを泳ぎ切った、スペインチームのメンバー。



危機から蘇った樹

メタセコイアという樹をご存じでしょうか。別名アケボノスギ、イチイヒノキといいます。かつては、スギ科に分類されていましたが、ヒノキ科の植物です。百万年前に絶滅したと思われていましたが、太平洋戦争が始まる昭和16(1941)年、古植物学者の三木茂博士によって化石として発見されました。敗戦後、中国湖北省にある神木がメタセコイアだとわかったと、「あの化石は生きていた!」と世界の問題になりました。米国からも現地へ調査に入って種子を持ち帰り、栽培がスタート。日本初となる苗木は昭和天皇に献上され、皇居に植えられました。昭和25(1950)年、さらに100本の苗木が届き、全国へ配布。生長が早く1年で約80cm伸びるメタセコイアは復興のシンボルとしてブームになり、東京オリンピックの頃に境に熱は冷めていきました。

太古の眠りから覚めて76年。日本・中国・アメリカの学者(注)たちの連携により復活した“奇跡の樹”は、わたしたちの平和な暮らしにひっそりと寄り添い続けてくれています。

(注) 三木茂博士 胡先驌博士(Hu, H.H.)、鄭万鈞博士(Cheng, W.C.) メリル博士(Merill, E.D.)、チェイニー博士(Chaney, R.W.)

見つけてみよう!

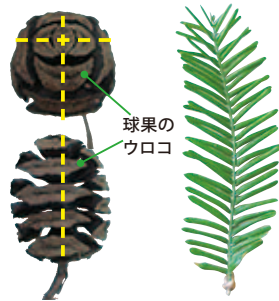
メタセコイアは、セコイアやヌマスギと混同されがちです。どこが違うのでしょうか。主なポイントを2つ、挙げてみました。

落葉か常緑か

セコイアは常緑の針葉樹、メタセコイアは落葉の針葉樹です。四季折々の豊かな色の移ろい、風情や情緒を味わえるのがメタセコイアです。セコイアは、北米カリフォルニア州の国立・州立公園、森林保護区に聳え立つ巨樹たちが有名です。広大な土地で100m以上に育ち、世界樹高ランキングのトップを占めています。

対生か互生か

葉っぱと球果にも注目してみましょう。メタセコイアの葉は2枚が向き合い、球果のウロコも十字に対生しています。一方、セコイアと落葉のヌマスギ(別名ラクウショウ)は、葉が一枚ずつ互い違いに互生し、ウロコも斜めに並び、成熟するとバラバラになります。



鱗片は向き合い、十字に並ぶ(十字対生) 葉は向き合う(対生)

●主な参考文献●
岡野浩・塚腰実著『メタセコイアと文化創造』大阪公立大学共同出版会
斎藤清明著『メタセコイア—昭和天皇の愛した木』中央公論社

●協力●
大阪市立自然史博物館 <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/>
万博記念公園 <http://www.expo70-park.jp/>

麻布を支える“裏方さん”に、聞いてみた!

麻布地区総合支所協働推進課土木係の加賀豪さんと、公園指定管理者「アメニス・ケイミックス・日比谷花壇グループ」の倉石篤さんにも、メタセコイアと公園管理について、お話を伺いました。

加賀さん 六本木西公園は、メタセコイアがシンボルツリーになっています。ここは旧郵政省の官舎跡地を区が購入して昭和56(1981)年に公園にする際、メタセコイアが植樹されました。その後、もっと陽当りをよくし、災害時の拠点としても活用できるよう住民ワークショップなどを経て、平成28(2016)年、メタセコイアをシンボルツリーとして残したまま全面改修を行いました。これからも、地域に愛されている樹の管理をしっかり行い、新旧の樹がバランス良く調和した、良好な樹木環境づくりを目指していきます。

倉石さん 当グループはこの4月から麻布地区にある区立公園・児童遊園の管理運営を行っています。麻布地区は狭い場所に大きな樹が生えているので作業用の重機も通せず、手入れに苦労しています。樹木や公園の管理は、木にとっていいことなのか、生活する人にとっていいことなのか、みなさん価値観が違うので難しいですが、思い切った決断をして「以前と比べてよくなったね」と言っていただけだとやはり嬉しいです。

筆者がメタセコイアに出逢った8月6日は、奇しくも広島原爆の日だった。日本の再生と平和—もっと身近な“みどりの存在”に気づいたら、面白いにちがいない! そんな「新風」を運んでくれた麻布のみどり、みなさんは、どんな風を感じますか?



六本木西公園のシンボルツリー

メタセコイアがある麻布地区の区立公園・児童遊園

- 六本木三丁目児童遊園(六本木3丁目15-25)
- 六本木西公園(六本木7丁目17-8)
- 狸穴公園(麻布狸穴町63)
- 網代公園(麻布十番2丁目15-1)
- 新広尾公園(麻布十番4丁目5-1)
- 有栖川宮記念公園(南麻布5丁目7-29)
- 西麻布二丁目児童遊園(西麻布2丁目18-9)

note:各公園により、メタセコイアの生育状態が異なります。網代公園では、少し樹の勢いが弱くなっているのか、落葉が他より早めです。

こんなことも聞いてみた!

- 公園・児童遊園の清掃について
港区シルバー人材センター等の方々による園内の清掃は、週3〜5日。トイレ掃除は、毎日2回。
- 植栽について
公園整備の際に地元の意見を尊重しながら選定、シンボルツリーなどを決めている。
- 樹木の管理について
樹木医による診断は3年に1度。樹木1本1本のカルテをつくり、状態と状況を記録。定期的な手入れと地道な管理により、倒木・落枝事故などを未然に防いでいる。

加賀さん(左)と倉石さん(右)

(取材・撮影・文/小池澄枝)



駐日カザフスタン共和国特命全権大使
イエルラン・パウダルベック・コジャタエフ大使



カザフスタン共和国

カザフスタン共和国
面積:272万4900平方キロメートル(日本の7倍)
人口:1,790万人(2016年:国連人口基金)
首都:アスタナ
元首:大統領:共和国大統領(ヌルスルタン・ナザルバエフ)(任期5年)
議会:二院制(上院:セナート(定員47名、任期6年(3年毎に半数改選))、
下院:マジリス(定員107名、任期5年))

参考および地図の出典元:外務省ホームページ
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/kazakhstan/index.html>



民芸品

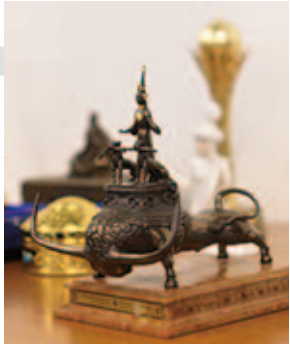
取材協力／カザフスタン共和国大使館

大使を訪ねて 42

麻布の"世界"から



チョコレート



カザフスタンの民芸品



旧首都アルマティはリンゴの里と呼ばれる。

KAZAKHSTAN



シルクロードのホージャ・アフマド・ヤサヴィー廟。世界遺産。
写真提供:カザフスタン大使館

歩いてわかる過去と現在

大使がそもそも日本に興味を持ったきっかけは、「カザフスタンと日本人は人種が近く、文法や文化などが似ていて、親しみを覚えたからです」。

13年前との変化を伺うと、面白い答えが返ってきた。散歩が大好きな大使は、ベビーカーを押している女性をよく見かける。覗くとワンちゃんに乗っていてびっくりさせられる。昔は見られなかった光景だ、とにっこり。一方、以前利用していたスーパーが看板も変えずに営業していて、再開発でビルが林立していく中で嬉しかったと話される。

一家そろって健脚で、休日は家族で元麻布の公邸からレインボーブリッジを渡ってお台場まで歩くこともしばしば。「8キロほどです」と、涼しい顔で答えられたので、こちらがびっくり。広々としてそよ風を感じられる場所が好きで、代々木公園も大使一家の徒歩圏内だそう。日本庭園に行かれることもよくあるという。歩きながら、東京の街の変化を楽しんでおられる。

また、大使は卓球が得意で、週に3、4日は集中的にプレーされ、非常に健康的な生活をなさっている。

経済成長と日本との輸出入

カザフスタンは、2000年以降、GDPが前年比10%近い伸びを続けている。その高い経済成長率は、安定した政治と経済のお陰で実現できたと大使。ナザルバエフ大統領の下で計画経済から市場経済へ移行し、様々な分野での改革が積極的に実施された。また、外資導入の環境整備も進められたため、海外から投資が増え、貧困率は40%から5%まで下がった。結果、GDPは23倍に拡大し、外貨準備高は950億ドルまで増加した。世界銀行の2017年ビジネス環

国土面積は世界9位で、世界最大の内陸国。シルクロードの通り道としての歴史と、未来都市アスタナから広がる開発著しい顔を持つ国。
イエルラン・パウダルベック・コジャタエフ大使(以下大使と表記)は、2016年、13年ぶりに来日、大使に就任された。以前にも何回か来日・滞在されていて、綺麗な日本語でインタビューに応じてくださった。

境ランキングでカザフスタンは、日本に次ぐ35位になり、海外からの直接投資額は2600億ドルに達した。

1997年から実施している「カザフスタン2030」戦略

にある「世界の最も競争力の高い50カ国に入る」という目標をすでに2013年に達成した。現在、先進30カ国に入るべく、原料・資源依存型経済から脱却し経済の多様化を目指す第3次近代化政策に着手している。

日本からの輸入は、主に自動車・自動車部品、建設用・鉱山用機械、ゴム製品など。日本への輸出は、金属、金属製品、原油、化学製品などが大半を占めている。今後、世界的に品質がいいと認められているカザフスタンの小麦などの食料品や羊毛の日本への輸出も検討していると大使は話された。

故黒川紀章氏が手がけた首都アスタナ

1997年、首都がアルマティからアスタナに移転された。新設首都設計国際コンペで黒川紀章氏が優勝し、アスタナの全体的なマスタープランを作成。設計には大統領自身も加わった。黒川氏は、駐日大使館はもちろん、カザフスタンにも足繁く通った。大使も氏と話したことがあり、「非常に情熱的にアスタナを語ってくくださった」と懐かしんでいた。この遷都が国全体の経済発展に繋がりを、アスタナはカザフスタンのダイナミックな経済成長の象徴となり、現在では人口100万人を超える大都市となっている。

最も有名な高さ97mのバイテレクタワーは、鳥の巣をイメージして大統領が走り書



きしたものが原型だ。「バイテレク」とは、「若くて強い成長している木」を意味し、歴史を守りながら将来に向かって発展していく国を象徴している。中央アジア最大のオペラハウスもアスタナにあり、現在3人の日本人バレリーナが活躍している。

日本人とカザフスタンの関わりは、日本人の勝茂夫元世銀副総裁が学長を務めるエリート養成校ナザルバエフ大学にも見られる。2010年に創立され、世界トップクラスの大学から教授や教員を招聘している。教育は全て英語で行っていて、短期間で国際基準に達した研究大学となった。勝氏は大学の成長に大きく貢献していると、評価が高い。

馬肉料理が断然おすすめ

ところで、日本での生活が長い大使、日本食の感想は? 「大好きですよ。納豆、刺身何でも大丈夫」と、笑顔。とはいうものの、日本で人気の馬刺しだけは、召し上がらないという。麻布十番にお気に入りの蕎麦や和食、焼肉の店があるそう。

国の伝統料理には馬肉や羊肉、その他乳製品を使うことが多い。最も愛されている

「ベシュパルマック」は、太めのパスタの上に、じっくり煮込んだ馬肉や羊肉と玉ねぎなどをトッピングしたもの。お祝いの席には欠かせない一品で、大使の好物。「カゼイ」という馬肉のソーセージ、「マンティ」という肉汁たっぷりの蒸し餃子、「サムサ」という小さいミートパイなどお薦め料理を教えてください。馬肉料理の登場が多いが、2015年のデータによると、カザフスタンで年間一人当たりの肉消費量は63.2kg。そのうち馬肉の消費量は6.2kg。これは、日本人の牛肉消費量と同じくらい。ちなみに、その他の肉消費は、牛肉25.3kg、鶏肉17.6kg、羊肉8.6kg、豚肉5.7kg。すべて火を通して食べる。



伝統料理のベシュパルマック。写真提供:カザフスタン大使館

また、カザフスタンは世界有数の良質な小麦生産国で、パンの種類も沢山あり美味しいという。お菓子の中では、チャクチャク(蜂蜜で固めた揚げた生地)、パウルサク(揚げパン)、種類の多いパイなどが人気。さらに、カザフスタン産チョコレートも高く評価されている。カカオの生産国でもないのに意外だったが、旧ソビエト時代からの工場で生産され続けていて、1930年代からの変わらぬ味が支持されている。飲み物は、濃い目の紅茶にミルクを入れて飲む人が多い。好みによって紅茶にレモン、ジャムを入れる。緑茶やコーヒーも人気だ。カザフスタン料理は日本人の口に合う料理が多い、と大使。機会があれば是非食べてみたいと思った。

真剣に卓球をされる様子を思い浮かべるのが難しいくらい、落ち着いた物腰の大使で、お話しされるときに少しはにかむお顔をされるのが印象的だった。

(取材／高柳由紀子、米沢恵美 文／米沢恵美)



近代都市アスタナの昼と夜。写真提供:カザフスタン大使館



麻布未来写真館 牛坂

麻布には動物の名前を冠した坂がいくつかあるのだが、このコーナーで初めて登場するのは“牛”。麻布のイメージからかけ離れたような感があるが、道標を読むと「源経基や白金長者の伝説のある筈橋に続く古代の交通路で、牛車が往来したためと想像される。」これは、ザ・AZABU40号で扱った“一本松坂”の源経基の伝説につながるか!? 期待に胸が弾む。

別名「牛鳴坂」

坂下から見上げると大した勾配に見えず「結構長い坂だな」位に思うのだが、坂上から見下ろした写真をご覧ください。牛も思わず「泣き」を入れるであろう勾配なのだ。しかも予想外に長い…。坂の道幅が狭いので一層長く感じるのかも知れない(別の意味で胸が弾む)。坂上からの景色はこれまた意外にも絶景。



平成25(2013)年 坂下から見上げると「牛が鳴く」とは思い難いゆるやかなさ

筈橋は何処?

道標に書いてある“筈橋”は何処にあるのか? それは坂下の手前の十字路がその名残となる場所なのだ。現在は橋も何も残っていないのだが、かつてはここに筈川が流れ(現在は全面的に暗渠化しているが、実際には地下で流れている)、そこに橋が架かっていたようだ。「弁慶と牛若丸(源義経)の五条大橋」がふと頭をかすめ、源経基の伝説が俄然気になる。

筈とは?

今更ながら読み方が難しい。「こうがい」と読み、筈川が由来として付近の町域一帯は昭和42(1967)年まで「筈町」の名前が付いていた。「こうがい」とは何か? 調べてみると「髪を掻き揚げて鬘を形作る装飾的な結髪用具」と、「『三所物』と呼ばれる日本刀(脇差)の付属品のひとつ」とある。前者は女性が使う道具であると想像がつくが、後者は「日本刀」の付属品である。とはいえ、結論からいえば「道具」としての使用用途はいずれもほぼ同じ。昔は男性も案外「身だしなみ」にも気を遣っていた、ということかも知れない。

伝説のあらすじ

町名の由来のひとつとなる「筈橋(源経基)伝説」。実は一本松坂で経基が一夜の宿を求めた話の少し手前の話になる。「平将門謀反」の報告のため京都へ戻ろうとする経基は筈川(当時は龍川と呼ばれ、大きな川であったようだ)にさしかかった。橋には関所があり、越後前司広雄(何の脈絡もないが、すぐ隣に同じ名前前の町名が…と頭をかすめる)という将門一派が通行人に厳しい詮議をしていた。今風に言えば将門は“非常線”を張って厳重に警備をしており、経基は見事にその網にかかったことになる。

当然詮議と相成る訳だが、経基もさるもの「自分も将門の一味で、軍勢を集めるため相模国に行く」と偽る。「何か身分を証明するものを」と催促され、刀にさしていた“筈”を差し出し、何とか虎口を脱することができた。伝説を繋ぎ合わせれば、その後一本松を経由して京都に戻るのだ(戻った先で待っていたのは更なる“辛酸”だったのだが…)。



昭和50(1975)年 今から42年前は木々が鬱蒼と茂る様子が覗える。



平成25(2013)年 道幅こそ変わらないが、「鬱蒼」感は大分薄らいでいる。ここに筈川が横たわり、筈橋が架かっていたとは夢想だにしない。

※昭和50(1975)年、平成25(2013)年、写真撮影:田口政典氏、写真提供:田口重久氏によるものです。

「麻布未来写真館」とは

港区麻布地区総合支所では、平成21年度から区民や企業等と協働し、麻布地区の昔の写真などを収集するとともに、定点写真を撮影し、麻布のまちの変化を保存する取組として「麻布未来写真館」事業を運営しています。この事業は、麻布地区の資料収集・保存を通じて、住民の方々にとって身近な歴史・文化的な資料価値を持つ写真を保全・継承し、より一層活用することを目的としています。同時に、まちの歴史や文化をより多くの方々に知っていただき、まちへの愛着を深めていただく一助となることを目指しています。



平成29(2017)年 別名「牛鳴坂」とは見事なネーミング。下から見上げた時とは大違いの傾斜をみせる 写真撮影:おおばまりか

伝説の筈

経基が差し出したその“筈”、現存するのだ。渋谷金王八幡宮という神社に保管されている(実は別の筈伝説とも相まって縁がある神社なのだがここでは割愛する)。1000年以上の時を経て伝説の物証となる“筈”が残っているのは驚くべきことだ。



渋谷金王八幡宮に残る1000年以上前の“筈”。綺麗な形で現存しているのはまさに「驚き」の一言

麻布には古代からの要衝としての役割があり、地区を繋いで歴史の足跡を垣間見ることができるのは大きな魅力といえるのではないだろうか。

今は町名こそ残っていないが、“筈”の付くところが散見される。伝説は今も我々に静かに何かを語りかけているのかも知れない。



「麻布未来写真館」では、古い写真を探しています。

未来に向けて、残し、伝えていくべき「麻布地区の古い写真」がありましたら、港区麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当までご連絡ください。
お問合せ 電話:03-5114-8812



現在の島崎藤村旧居跡 2017年8月

麻布の軌跡

島崎藤村と作家たちの麻布飯倉片町

これから取り上げる島崎藤村[1872(明治5)年-1943(昭和18)年]なる作家は1922(大正11)年1月『婦人之友』に連載された『飯倉だより』に拠れば、1918(大正7)年10月より麻布区飯倉片町33の借家に転居し、1937(昭和12)年、麴町へ移るまでの足かけ19年飯倉片町に住んでいた。ここは麻布台地が南側の古川へ向かって下る窪地になっており坂の多い町でもある。何処へ行くにも坂を上ったり下ったりの谷底に住んだ作家たちの軌跡を島崎藤村を中心に追っていく。



情縁という陥穽の果てに―新生事件―

1912(明治45)年、姪との間に過ちを犯し翌年4月、友人の中沢臨川^{りんせん}(注1)の勧めで渡仏。滞仏中の芸術家たち山本鼎^{かなえ}、正宗得三郎らと交流する。(注2)

1916(大正5)年7月、3年の歳月を経て帰国。帰国後、紀行文をまとめる手伝いをした姪との関係が復縁。1918年5月1日、東京朝日新聞に『新生』の連載がはじまる。次兄(姪の父)の逆鱗に触れ姪を長兄の元へ行かせた。いわゆる新生事件である。新聞紙上に自己の背徳を正直に告白したことで社会的に批難され周辺にも迷惑がかかるのはもちろんのことだったが、その誠実なる告白は高く評価され、無事に第一部の連載を終えた同年10月、麻布区飯倉片町33へ転居している。藤村、この年46歳。

再浮上する藤村―『嵐』の発表―

飯倉片町での藤村は新生事件の波紋から避けるよう預けてあった子どもらとひっそりと暮らしはじめる。4人の子どもの成長は著しく、長男は馬籠へ帰農させ、次男三男は将来、画家への道を歩ませるため画学校へ通わせる。親交のあった小諸出身の洋画家、小山敬三[1897(明治30)年-1987(昭和62)年]は藤村の強い勧めで渡仏し彼が1928(昭和3)年に帰国した翌年の3月、藤村は次男をフランスへ留学させている。こうして繁雑ではあるが子どもたちの育成に力を注ぐ日々を描いた短篇小説『嵐』を『改造』[1926(大正15)年9月]に発表する。『嵐』(新潮社1927)については、現実と抽象の間から詩が生れたという有島生馬^{いくま}の好評もあり、大正期に確立した心境小説の代表作ともいわれた。世間の注目を浴びた告白小説『新生』とは違い、日常生活で目にふれたものを、作者特有な静的文体の筆致で捉えた丹念な描写が好評を拍した。この契機によって大正文壇に再浮上した藤村は、私生活でも再婚し『夜明け前』(新潮社1932-1935)という大作の海へ漕ぎ出していくのである。

懸隔する作家たち―藤村と梶井基次郎―

藤村が飯倉片町で過ごしはじめた7年という歳月が過ぎようとしていた1925(大正14)年5月、麻布区飯倉片町32へ小説家志望の学生が転居してくる。梶井基次郎[1901(明治34)年-1932(昭和7)年]である。三高時代からの友人、淀野隆三[1904(明治37)年-1967(昭和42)年]や外村繁^{とむら}[1902(明治35)年-1961(昭和36)年]が麻布市兵衛町に住んでいたこともあり、淀野の住んでいた下宿の2階へ移る。家主は植木職人で、職を継いだ若夫婦が2階の四畳半二間を下宿にしていた。下宿は飯倉片町の高台の一角に位置し、表通りから坂を下りきり右側の植木坂を上り途中を右手に入った所であった。藤村宅は植木坂を下りきった谷底の一角にあった。(地図★印参照)



1926年4月、梶井は外村と同人雑誌『青空』15号を持参して藤村を訪問する。玄関の二畳間へ通され誌を献呈した。話をしているうちに、藤村の紙巻煙草を一口吸ってはすぐに火鉢の灰に立て、その周りを一周させてしまうほどの吸い方に梶井は羨ましさを感じた。当時の文壇では大家の藤村と文士たちとの差異は著しかったのである。

だがこの夏、梶井に契機が訪れる。『新潮』の新人特集号への執筆依頼を受けたが病状が悪化し執筆出来ず、この時の未完作が後の『ある崖上の感情』となる。10月、『青空』16号から同人となった三好達治[1900(明治33)年-1964(昭和39)年]が隣部屋へ越してくる。三好と梶井は生涯にわたっての付き合いとなり、後に三好は淀野と2人で病床にある梶井の創作集『檸檬』の刊行に奔走する。

1928年5月、梶井は飯倉片町の下宿へ戻る。留守宅の三高時代からの友人、北川冬彦のもとにいた伊藤整[1905(明治38)年-1969(昭和44)年]と知り合う。伊藤は後に、飯倉片町界限を思わせる情景描写を絶対的な安定感をもって描いた自伝的長編小説『若い詩人の肖像』(新潮社1956)を発表している。7月、梶井は『ある崖上の感情』を『文芸都市』に発表する。文壇では舟橋聖一から高く称賛された作品だ。概要は、生島と石田という2人の青年が主人公で、生島から「崖上から見る窓の魅力」に誘われた石田が、実際見て感じたのは欲情より「『もののあはれ』といふやうな気持を超した、ある意力のある無常感であつた」という内心の眩きが描かれた作品である。この後、梶井は数本の批評を手掛けたが、9月帝大を中退し大阪へ帰郷する。梶井は飯倉片町の下宿に戻るつもりで手荷物以外はそのままに東京を去った。同年9月3日のことである。

麻布飯倉片町は「居る所なり」

71歳の生涯の内、一つのところ飯倉片町に最も長く住んだ藤村は、「飯倉附近」(『改造』1928)で飯倉片町界限を「飯倉二丁目の裏手に隠れてゐる」「特色の深い小路」を「巴里のサン・ゼルマン」にある「さびれた通り」と重ね「私の好きなところだ」と描いた。現在では、麻布台3丁目4番に島崎藤村旧居跡がたっている。

文学碑こそ存在しないが大正期の文士たち―梶井基次郎、淀野隆三、北川冬彦、三好達治、伊藤整らが暮らした下宿の場所は現在では地形の変化で、植木坂の途中を入ったところに見当がつく程度である。東京へは二度と戻ることはなかった梶井の日記や草稿に「その町の持つてゐる数々の道」「高台の町へ移り住んで」の表現から、梶井が麻布界限を気に入っていたと記憶しておくのもいいだろう。

注(1)文芸評論家 小山内薫らと『やまびこ』を創刊

(2)滞仏時代は河盛好蔵氏『藤村のパリ』第49回読売文学賞に詳しい。河盛氏は三高時代に梶井、三好と交流。工藤氏、鹿島氏の師でもある。

*引用はそれぞれの全集に拠った。引用に際し、旧字は新字に改めルビは省略した。本文、引用の読みづらい漢字にはルビを振った。

本稿は此の夏、有楽町よみうりホールで開かれた日本近代文学館主催第54回夏の文学教室/大正という時間―文学から読む/鹿島茂氏「パリの島崎藤村」に拠るところが大きい。
藤村の母校、明治学院大学名誉教授工藤進氏の全文フランス語からなるホームページも拝見いたし参考にさせていただいた。

●参考文献
〈島崎藤村〉
『島崎藤村全集』類聚版全12巻別巻1(筑摩書房 1980-1983)
『新潮日本文学アルバム4 島崎藤村』(新潮社 1984)
『ちくま日本文学全集 島崎藤村』(筑摩書房 1993)
亀井勝一郎『島崎藤村論』(新潮社 1961)
和辻哲郎『和辻哲郎全集 3』(岩波書店 1962)
三好行雄司会『島崎藤村』(学生社 1977)
河盛好蔵『藤村のパリ』(新潮社 1997)
瀬沼茂樹『日本文壇史22』(講談社 1998)
〈梶井基次郎〉
『梶井基次郎全集』(筑摩書房 1999)
中谷孝雄『梶井基次郎』(筑摩書房 1961)
鈴木貞美『梶井基次郎の世界』(作品社 2001)
〈伊藤整〉
『伊藤整 シリーズ新潮現代文学13』(新潮社 1981)
〈工藤氏HP〉
<http://xerxes5301.canalblog.com/archives/2015/02/10/31484653.html>
(取材・文・撮影／おおばまりか)

麻布地区地域サロン事業

“ちょこっと立ち寄りカフェ”に来てみませんか



麻布地区総合支所では、地域の高齢者の皆さんが気軽に立ち寄って楽しく交流できる場として、「ちょこっと立ち寄りカフェ」を開催しています。

どなたでも気楽な雰囲気でお茶やコーヒーを飲みながら、おしゃべりや季節のイベントなどを楽しんでいただけます。

毎月、麻布地区のいきいきプラザ4館で開催しています。ぜひ、お近くの会場にちょこっと立ち寄ってみてください。地域のボランティアスタッフもみなさんのお越しをお待ちしております。

会場及び内容(予定)

◆飯倉いきいきプラザ 東麻布2-16-11
1月10日(水) ネクタイで作るネックレス
3月7日(水) パステル画
◆西麻布いきいきプラザ 西麻布2-13-3
1月18日(木) 新春落語
3月15日(木) とんぼ玉づくり
◆ありすいきいきプラザ 南麻布4-6-7
1月11日(木) さわやかレディース&フレンズ
3月8日(木) ジャズコンサート
◆南麻布いきいきプラザ 南麻布1-5-26
1月24日(水) 新春お楽しみ会
3月28日(水) ヴァイオリンコンサート

都税事務所からのお知らせ

12月は固定資産税・都市計画税第3期分の納期です(23区内)

12月27日(水)までに、納付書裏面に記載されている金融機関、コンビニエンスストア等でお納めください。納税には、安心して便利な口座振替をご利用ください。パソコン・スマートフォン等からクレジットカードでも納付できます。詳細は、HPまたは下記問合せ先へ

お問合せ／<課税>港都税事務所 固定資産税班 電話／03-5549-3800(代表)
<納税>港都税事務所 徴収管理班 電話／03-5549-3800(代表)
<口座振替>主税局徴収部納税推進課 電話／03-3252-0955

12月はオール東京滞納STOP強化月間です

都と区市町村では、安定した税收確保と納税の公平性確保を目指して、毎年12月を「オール東京滞納STOP強化月間」と位置づけ、都と区市町村が連携した広報や催告による納税推進、差押えやタイヤロック、搜索等の滞納処分など、多様な徴収対策に取り組んでいます。詳細は、下記問合せ先へ

お問合せ／主税局徴収部個人都民税対策課 電話／03-5388-3039

年末年始における窓口業務のご案内

都税事務所・都税支所・支庁、都税総合事務センター・自動車税事務所での都税の申告・納税・証明等の事務の取扱い、年末は12月28日(木)まで、年始は1月4日(木)からとなります。

12月29日(金)から1月3日(水)までの間に申告書・申請書を提出する場合は、都税事務所・都税支所などに設置している「申告書等受箱」をご利用ください。

お問合せ／港都税事務所 電話／03-5549-3800(代表)

誰もが気軽に参加できる
コーヒーとおしゃべりのほっこり広場
サロン麻布を開いています

ほっと一息できる居場所として地域の方に参加いただいています。
参加者のご意見を元に折り紙づくりなどのミニイベントも同時に開催しています。

開催日 毎月第4火曜日
時 間 14:00～18:30
場 所 麻布区民協働スペース(港区六本木5-16-46 麻布保育園3階)

お問合せ／3Aクラブ 電話／090-6152-2781

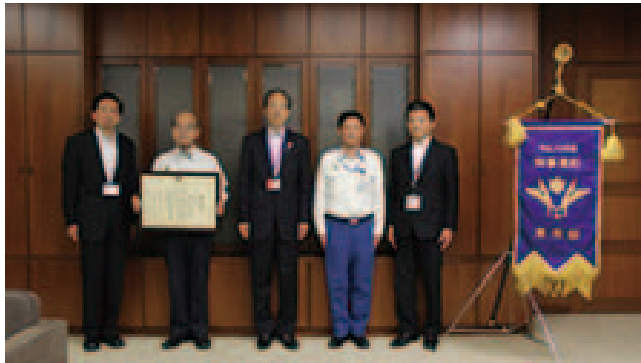


麻布消防団が平成29年度
東京都功労者表彰を受賞しました

日ごろの消防団活動の功績が評価され、麻布消防団が東京都功労者として、「消防・災害対策功労」を受賞しました。

平成29(2017)年10月13日(金)に麻布消防団の長谷川敬一団長が港区役所を訪問し、武井雅昭港区長へ受賞報告を行いました。

お問合せ／麻布消防署防災安全係 電話／03-3470-0119



平成30年度
港区民交通傷害保険料改定のご案内

港区民交通傷害保険は、少額の保険料でご加入でき、車両による交通事故によりケガをされた場合に、保険金をお支払いする港区在住者向けの保険制度です。

平成30年2月1日から募集開始の平成30年度分ご契約保険料が以下のように改定されます。

コース	補償内容	最高保険金額	年間保険料
A	区民交通傷害Aコース	150万円	1,000円(※改定なし)
B	区民交通傷害Bコース	350万円	1,700円(※改定なし)
C	区民交通傷害Cコース	600万円	2,900円(※改定なし)
AJ	区民交通傷害Aコース +自転車賠償プラン	150万(交通傷害) +1億円(自転車賠償)	1,400円(※1,300円)
BJ	区民交通傷害Bコース +自転車賠償プラン	350万(交通傷害) +1億円(自転車賠償)	2,100円(※2,000円)
CJ	区民交通傷害Cコース +自転車賠償プラン	600万(交通傷害) +1億円(自転車賠償)	3,300円(※3,200円)

※…従来保険料

なお、募集につきましては、広報みなと平成30年2月1日号にてお知らせします。

加入対象者 平成30年4月1日時点で港区に住所がある方
保険期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日
加入申込期間 平成30年2月1日(木)～平成30年3月30日(金)

このご案内は、概要を説明したものです。詳しい内容については損保ジャパン日本興亜までお問い合わせください。

【引受保険会社】
損害保険ジャパン日本興亜株式会社東京公務開発部営業開発課
東京都新宿区西新宿1-26-1
電話／03-3349-9666(平日の午前9時から午後5時まで)

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課協働推進係
電話／03-5114-8802

港区麻布地区総合支所だより



Facebook ページ “Minato Information Board” を開設しました！！



港区の情報をやさしい日本語と英語で
配信しています！

●Facebookページ

<https://m.facebook.com/city.minato.mib/>

または

お問合せ／産業・地域振興支援部地域振興課国際化推進係
電話／03-3578-2565

ザ・AZABU

●配布設置場所ご案内
六本木1丁目、六本木、広尾、麻布十番、赤羽橋の各地下鉄の駅、ちいばす車内、みなと図書館、麻布図書館、南麻布・あずす・麻布・西麻布・飯倉の各いさきプラザ、麻布区民センター、麻布地区総合支所等
●本紙掲載の記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

Chief 田中亜紀
Sub Chief 高柳由紀子
Staff 石川味季
出石供子
大澤佳枝
おおばまりか
大村公美子
加生武秀
加生美佐保
小池澄枝
田中康寛

中嶋 恵
西森瑞穂
畑中みな子
堀内明子
森 明
山下良蔵
米沢恵美
渡邊香奈

編集後記

ザ・AZABUのスタッフとして参加させて頂き、ちょうど1年が経ちました。スタッフとなり初めて、自分自身が携わっているボランティア活動「麻布十番いぬねこ里親会」の記事(No.39に掲載)をレポートにしました。再度、読み返しをすると、ここをもう少し加えれば良かったかな、などと自分なりに欲も出てきて、1年前から比べるとほんの1ミリくらいは成長できたのかなとも思いました。しかし、満足するのはまだまだです。ようやくスタート地点に立てた自分に、取材を記事にする作業は始まったばかりです。これからも皆様に伝わりやすい記事を書くことを目標に頑張っていきたいです。(中嶋 恵)

「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします！

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽に問合せください。
年中無休／午前7:00～午後11:00 ※英語での対応もいたします。

電話／03-5472-3710 FAX／03-5777-8752
Eメール／info@minato.call-center.jp

“Minato Call” information service
Minato call is a city information service, available in English every day from 7 a.m. – 11 p.m.
Minato Call: Tel: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752; , E-mail: info@minato.call-center.jp

※第41号「麻布びと」の「浅田(哲也)さん」は、正しくは「阿佐田(哲也)さん」でした。お詫びして訂正します。

ザ・AZABUに関するアンケートにご協力ください！

麻布地区情報紙「ザ・AZABU」を、皆さんのご意見・ご感想をお聞かせください。より魅力的な紙面にするための参考にさせていただきます。

アンケートご回答の方
先着500名様に、
麻布限定オリジナル巾着袋を
プレゼント！
アンケート締切:平成30年2月28日(水)

お手数ですが
82円切手をお貼りください

1068515

東京都港区六本木
5丁目16番45号

麻布地区総合支所
協働推進課
地区政策担当 行

郵送の手順

上下太枠部分(キリトリ線)で切り離します。

宛名面の裏側を張り合わせる

山折り 谷折り

宛名部分が表側に、アンケートが中側になるようにZ型に折って、のりで貼り合わせます。

のりしろ

麻布地域情報紙「ザ・AZABU」アンケート ご意見・ご感想をお聞かせください。

Q1 性別と年齢を教えてください。

☐男 ☐女

☐0～10歳 ☐10歳代 ☐20歳代

☐30歳代 ☐40歳代 ☐50歳代

☐60歳代 ☐70歳代以上

Q2 「ザ・AZABU」は、公募により参加した地域の方が編集委員となり、取材や原稿作成を行っていることを知っていましたか？

☐知っている ☐知らない

Q3 「ザ・AZABU」をどのような方法で手に入れましたか？(複数回答あり)

☐自宅に届く ☐麻布地区総合支所で

☐図書館で ☐駅構内で ☐その他

Q4 「ザ・AZABU」42号の中で、興味・関心を持った記事はありましたか？(複数回答あり)

☐表紙 アートな麻布に魅せられて (P1)

☐麻布びと (P2)

☐麻布のみどりを探して (P3)

☐大使を訪ねて (P4)

☐麻布未来写真館 (P5)

☐麻布の軌跡 (P6)

☐その他[]

Q5 「ザ・AZABU」の評価をお願いします。

☐非常に良い ☐良い

☐あまり良くない ☐良くない

Q6 「ザ・AZABU」のご意見、ご感想、今後取り上げてほしいテーマをお聞かせください。

例)「麻布地域の○○の活動を取り上げてほしい。」

お名前

ご住所 〒

ご協力ありがとうございました。

のりしろ

(山折り)切り取らないでください

のりしろ

(谷折り)切り取らないでください

のりしろ